

ORERO

no
music
no life

53

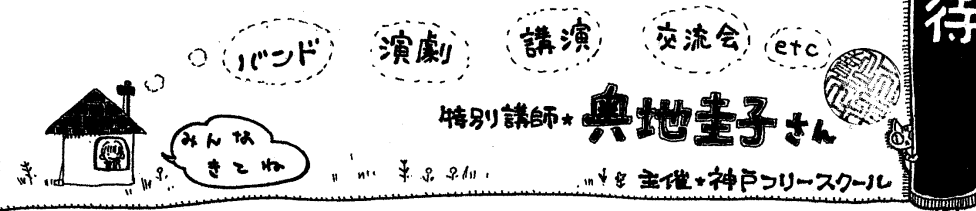


09/29 阪神タイガース、リーグ優勝！
10/29 神戸フリースクール15周年記念祭

神戸フリースクール

2005
10.29.SAT

15周年祭 ★ 東灘うはらホール



ご招待

割引券持参の方は、当日一般1,500円、19才以下800円でご参加いただけます。(小学生以下は無料)ぜひお越しください。

《開場15:00 開演15:30》会場内で講演などの他、いろいろなボランティアグループのパネル展示とともに、交流会を行います。親子ルームもありますので、小さなお子さんもお一緒に過ごしいただけます。

祝15周年

木村 蘭

私が神戸フリースクールと出会ったのは、もう7年以上も前のことになる。私はもうその頃の自分とはだいぶ違っていると思う。でも、神戸フリースクールは変わらない。訪れるといつでも、出会った頃と同じ心地いい空気が私を安心させてくれる。

そんなKFS独特の空気を説明するのはかなり難しいし、うまく伝わらないかもしれない。

私が思うのは、親も含めてたいの大人は、自分たちの価値観の枠の中に子どもを留めておこうとする。その枠内からはみだした子どもは、なんとかして自分たちの許容範囲に戻そうとする。その枠を広げようとはなかなかしない。でも、KFSはそうじゃない。そんなわけのわからない枠はない。何かを評価の対象にされたりしない。だからありのままの自分でいられる。人をむやみに非難したりバカにしたりしない。だからいつでも、心から笑うことができる。だから「心にくくりつけた荷物を静かにおろせる場所」(by コブクロ『ここにしか咲かない花』)なんだと、私は感じている。

しんどい思いをしている子どもたちにとってもそういう場所であってほしいし、軽くなったその心でいろいろな可能性を発見していける場所として、神戸フリースクールがいつまでもずっと、そこにあってほしいと心から願っている。

H.P - WWW.FREESCHOOL.JP/KFS

MAIL - TOKASYA@HOTMAIL.COM

お問い合わせ・TEL & FAX 078-366-0333

住所・兵庫県神戸市中央区下山手通8丁目8-10

※オーレロ通信の一部、または全文の無断転載を禁止します



KOBE FREE SCHOOL

神戸フリースクール15歳

田辺 克之

続けていたから、多くの
人に出会えた。あの時迷っ
ていた。家の中が大きく揺
さぶられて、柱が傾き屋根
が破れ食器はことごとく
破壊され、潮時かなと一瞬
迷った。あのとき波のよう
に押しかけるエールがなけ
れば、いま神戸フリースク
ールは存在していないかも
しれない。傾いた家屋の中
で家具を片付けていたら、
相談の電話が鳴った。なに
もこちらの事情がわから
ない遠方からの電話であっ
た。内容は深刻だった。ほ
こりだらけの部屋で、片手
に箒を持ったまま、突っ立っ
て相談を聞いたことを、昨
日のように思い出す。その
人の消え入るような声が、
そして僕が大きな声で「い
まあなたが倒れたら、子ど
もはどうするのですか」と
叫んだ声がよみがえる。そ
してその声は自分の心につ
きささる。いまこのフリース
クールの灯を消したら、
子どもはどこへ行くのだ

ろう、子どもはどうした
らいいのかと自問自答す
る。ぼんやりと時間が流
れ、震災直後の記憶はあ
るが、それから数日間ど
うしていいのかわからな
く、破るように電話が鳴り
続ける。目を覚ませと電
話が語りかける。そして
再出発しようとする。そ
その直後からまるで洪水
のように、励ましの電話が
あり、食料や飲み水を届
けてくれる訪問者もあり、
ぼくらはヤミから舞い戻
ることができた。おかげさ
かもしれないが、そんな
感じだった。

ひとつ間違えば、あの
枕元のテレビの台がごち
らに倒れていたら死んで
いたかもしれない。同じ時
間に六千人の命が亡くな
った。おれは生かされた、
お前は生きよとだれかに
後押しされたように感じ
た。でもあれいかうらや
へらと生きている。僕もや
つと白髪が目立つようにな
ってきた。そろそろ一人
前かな。これからかな、お
もしろいの。

なんやろ

えりな

神戸フリースクール15周
年祭おめでとうございま
す。

自分では何を書いたら
いいのかわからないので先
生に言われた、自分にとっ
ての「フリースクールの意
味」について書いてみます。
フリースクールは私にと
って…なんやろ。

そこまで深く考えた事
がないからわからないかな
…。

でも学校みたいに絶対行
かなきゃダメって所じゃな
くて、行って楽な所。自然
に足がむいちゃう所。
毎日楽しくて、時間が
過ぎて行くのが早い。
まあとにかく大好きな場
所。

なんか宣伝ぶくなった…
これからもここでのおんび
りすごしていけたらいいな。
先生！次は20周年祭め
ごそうね！

揺れる心

まりママ

子どもはあなたの子ど
もではない。

あなたの弓によって
生きた矢として放たれる。
弓をひく。あなたの手
にこそ喜びあれ。

子どもは明日の家に住
んでいるので
あなたはそれを訪ねる
ことも夢みることもでき
ない。

ただ、弓をひくあなた
の手に喜びあれ。

カール・ギブラン著

「預言者」より

今年のはじめに読んだ
本三砂（みさご）ちづる著
「オニババ化する女たち」
に引用されていた詩です。
いいなと思って書きとめて
いたこの言葉が、麻里の
短期留学に際して揺れる
心を支えてくれました。
このときどい、不安、寂し
さは、私だけのものではな

- 考える種⑦ -

フリースクールにかかわるようになって、たくさん子ども達に親しくしてもらってきた。年令も親である立場もぬきにして、一人の人としてどう思い、何を考えているか子ども達には見ぬかれてしまうから、おかげで常に見つめる事が出来た。

「トラウマの国」（高橋 秀実 著）という本は「自分探し」とか「トラウマ」とか「スローライフ」とか取り上げて、そういう事にきまじめに取り組んでいる人達と、何かギャップを感じて居るこち悪そうにしながらもあい対している作者とのかけひきがおもしろくて、笑いながら読んでしまった。

「自分」というものを「はつきさせる」という話しのところで——人にはこう考えられているが、こう考えている私。あるいは、こう考えているが、人にはこう考えられている私。こういう形にするとメリハリが生じます。実はこのメリハリ部分で私たちは「私」を実感できるのではないのでしょうか。——という部分がありました。

私もいろんな人とかかわりの中で、自分探しをしていたわけでもないのに今まで知らなかった自分のあんな面、こんな面、と気づかせてもらった。年をとる事は確かに体力は落ちるし、目は老眼でかすみ、大好きな本も読みづらくなるし、顔にはシミやシワが増えてせつない想いもするけれど、こうして内面的には自分の事がだんだんわかってきたり、柔軟な物の見方が出来るようになって「年を取るのもいいもんかも?！」と私は思っている。何であれ、年月を積み重ねていく、続けていくという事は大きな意義があるんだとやっと今ごろ気がついた。

世の中は動きが早くていろんなものがどんどんかわっていく。だからこそ、フリースクールがただそこに[かわらずにある場所]として存在し続ける事は大切なのではないのでしょうか。

一日、一週間、一ヶ月……と、いつのまにか15年たったという事なんだろうけどその間この「居場所」でどれだけたくさん子ども達が時をすごしてきたのか……そして、これからまた……

大石 寿子

いのだ…と。

まもなく麻里は帰ってき
ます。また、新しい旅立ち
の時に備えてこの言葉を
ずっと忘れないでいようと
思っています。

(参考までに)

レバノン生まれの詩人カ
ール・ギブランは1931
年に亡くなりました。哲
学者・画家でもあった著者
の「The

Prophet」は30数
カ国語に訳され今も世界
中の人々に愛読されてい
るそうです。

アイラブ

フリースクール

はまじ

高校の卒論を書くため
にフリースクールを訪れて
早六年。その間、メンタル
フレンドとしての活動や、
ひきこもりを題材とした
映画「home」の上映会、
大学の卒業の祭にはフリ
ースクールメンバーと一緒
に卒業祭にも参加させても
らいました。子ども達や、

フリースクールを取り巻く
たくさんの人々との出会
いに、多くの刺激をもら
いました。これから子ども
達と共に歩んでいく、人と
人との輪の中に僕も交わ
っていきたいと思います。

祝15周年

リョウちゃん

僕は神戸F.S.にこくこ
く最近関わらせてもらう
ようになったリョウちゃん
です。この15年間の壮絶な
歴史を肌で体験はしてい
ませんが、全国の支援や協
力を得て再出発。ナベさん
自身が我ながら不思議だ
と、神戸三天不思議のひ
とつだと？胸を張って言え
るほどの15年間。
改めて15周年おめでとう
ございます。



未来劇場 姉妹

大槻 みらい

私達姉妹は仲が悪い。見た目はすごく似ているし、歳も四歳もはなれてるのに仲が悪い。私の母親は昔すごく有名な科学者だったらしい。でも母さんは、私たちに隠し事をしているみたいだ。母さんをジッと見つめると目をそらすのだ。(私達が隠し事をしているときも、そうなる。)

「お昼、ご飯よー。」
母さんの声。
「今行く。」
私が台所において行くと、緑(妹)が出て行く所だった。
「あれ？昼御飯は？」
「もう食べた。」
「あつそ。」
私は台所に入っていた。キリカに話があるんだけど...」
母さんは何か決意をしたようだった。
「何の話？」
「先に御昼食べなさい。」

『不登校生のPTA』のすすめ

ともパパ

「不登校」という言葉は現在、社会的にポピュラーな日本語として定着している。しかし、「不登校」とはどういう状態なのか？この問いかけへの明快な回答を現在も得るには至っていない。上の問いのきっかけになったのが、娘の「不登校」によってであった。現在、娘が学校に行かなくなつて1年と9ヶ月。随分元気がなくなった。振り返れば昨年1年間は暗黒の時代であった。当初、娘に対して何を？どのようにすれば？全くわからず不安や焦りばかりが先走っていた。孤立感から心が折れそうにもなった。不理解から娘に理不尽な発言をし、時には強圧的な態度で恫喝という暴挙に出たこともあった。反発し苦しんでいる娘を見ながら、何処か遠くへ行ってしまう気がして押さえようのない不安が波のように次から次へと押し寄せていた。

正直に告白すると、私は娘が不登校になるまで教育という

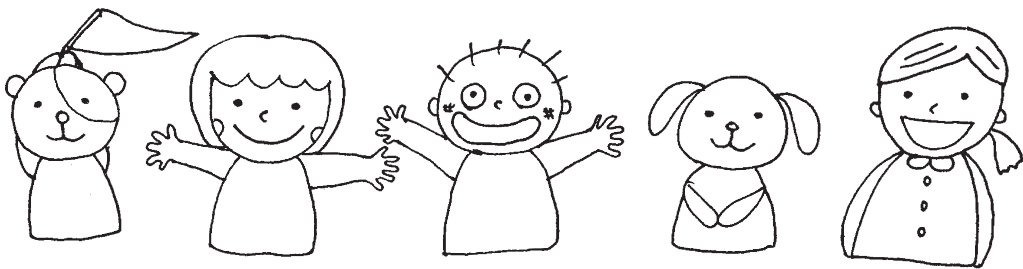
なぜか私は落ちついていない。それは知らなくていいのよ。」
母さんは、ポケットから拳銃を取り出した。「ごめんキリカ。あなた一人だけで成功させようがなばつた。でも失敗した。だからかなしいけど...。バイバイ...。」
私は痛みを感じなかった。でも私は撃たれたのだ。これが母さんの失敗だろう。母さんはなぜ私を十四年間に生かしたのだろうか...。私は真実を知らないうちに意識がとおくなつていった...



15さいのお誕生日おめでとう。

①

明石フリースクールが生まれたのは15年前。途中で震災にも負けた神戸フリースクールとなつて、そりや大変な時もあったけど、この神戸フリースクールを一生懸命生きてきましたね。いろいろな人たちに育てられてきた、この神戸フリースクールの人たちと出会って、そのおかげで、今まで知らなかった世界を見ることができました。フリースクールで多くの興奮と驚きと楽しみを経験させていたことに感謝します。長生きしてね。



ニージーランド からのレポート

まりちゃん

9/2 こんにちは。まりです。
突然ですが、ニージーランドに行く事になりました☆ホームステイをしながら語学学校に通う事になります。

多分ホームシックになる確率100%ですw

9/22
kon n n a g e n k i n
i s h i t e m a s k i n
a ? w a t a s h i h a
o , d o u n k u y a t t a n
m a s h u (w a r a i)

9/23 今、語学学校から書いてます。昨日とは別のPCでやったら日本語打てました。こっちは今、8時50分、日本は6時前です。学校は授業が分かんない。
10/5 ちくりん、レスありがとう☆ちなみに今はランチタイム。1ヶ月、最初の2週間はホームシックになったりして早く帰る

たいつてずっと思ってたけど今は1日がすぐ終わっちゃうって思ってる。あと3日かあ。って毎日力ウンタダウンしてます。(笑)

BBSより抜粋

「フィリピンに行ってきたー!」

よつぴー

東、美歌ちゃん、私も三人とも初海外でパスポートの申請やらバタバタしてしまいました。8月15、20日までの5泊6日、最初の2泊はバギオで後の3日はマグパラヤオ村でホームステイさせてもらいました。

バギオではハビリテーションセンターやろう学校、市場、ショッピングセンター、将学生の家等を回り、向こうのスタッフと一緒にご飯を食べたり、最後のパーティでは歌や踊りをしてくれました。私たちも「涙そうそう」をさんしんにあわせて歌ったり、向こうの結婚式でする踊りにも参加しました。
マグパラヤオ村に着い

てからは、小学校、高校、大学を回ったり、井戸やたくさんのお豚を見ました。どこに行っても暖かく迎えてくれてお料理もすごく美味しかったです。豚肉と酸味の効いたスープ、甘い野菜炒め、もう一度食べたいです。さよならパーティもダンスをしたり、はじけました。

びつくりしたことが、二つあります。一つはフィリピンは暑いと思込んでいたが、バギオは山の中で寒かったこと。向こうで上着を買ったことです。もう一つは虫が意外と少なかつたこと。よくわからぬ虫にたかられるんじゃないかと思っていました。この旅でたくさんの人や物との出会いがあり、普段考えないことや気付かない事がたくさんあって、行けてよかったなあとしみじみ感で抱きます。言ってくれた先生、引率してくれた桑原さんを始め一緒に行ったメンバーや、向こうのホストファミリー親切にしてくれてたたくさんの人に感謝の思いで一杯です

「不登校」

ともこ

私は今、不登校です。何で不登校になったかは、いじめにあったのと、友達関係が普通の時でも息苦しかったからです。なぜ息苦しかったかは、私はいつもいじられる役で友達とかいじつてきて、その間は普通なんですけど。いじり方が日に日に強くなってきて、ついに「天羽のお金でお菓子買おうやあ」とか言うて買わされたたり、トイレにどじこめられたり、頭を何回もたたいてきたり、「死ねやあ」とか言われたり……

全部冗談で言ったりしてるんかもしれへんけど、うちはめっちゃつらかった。そして、1年間、こんなが続いた。その1年の間、うちは2回集団無視された。精神的につらかったし、死のうかとも思った。でも、死ねなかつた。なんでも、こんな奴ら(学校の人)のせいで、なんでもうちは自分で死ななあかん

んって思ったからだ。そして不登校になったあ。最初は親にも怒られたし、しんどい時期だったけど「KFS」(神戸フリースクール)に来て、変わった。めっちゃ楽しい事が毎日あって、周りのみんなもめっちゃ優しくしてくれる。今は、あの時死ななかつたあつて思ってるし、KFSに出会えてよかったあつて思ってます。



感じる心

ずいぶん以前になるが、明石市内の学校がまだ「丸刈り」を強制していたころ、それが中学生らしい身なりだと教え、違反する生徒のうしろからバリカンを持った教師が追いかけるという漫画のような

光景が見られた。そこで小学5・6年生の保護者が中心になって署名を集め、校長と交渉した。「やがてそういう時代も来ると思うが、今年は無理」との説明であった。あとからわかったことは、あの校長は来年度で、次の校長にまかせるとのことだった。ややこしい事は先送りする習性が身に着いてしまったのだろう。似たようなことが、明石の教育委員会に「通学定期」を認めてほしいと交渉にでかけたときも、「神戸市はどうだろう」と委員が言ったのを覚えてる。いや今は神戸市内の問題ではなく、明石市内の子どものこととお願いに来ているのだから……と。だれよりも先駆けてやるうなどという熱心さはなく、不登校の子どもの実情を知ろうともしない。教育のプロに「感じる心」を要求するのは無理なことなのだろうか。ほんとうに情けなかつた。おまえがやれよ、と言いたかつた。おそれずに、まわりと歩調を合わせることで

けに汲々としなくて、不登校の子どもの保護者のために「肌脱」という気持ちにはならないのか。そして次は神戸市の教育委員会である。その前に県も行ったが、窓口が違ったりと署名をつぎかえされた。全国ネットにも呼びかけて集めた2600名あまりの署名である。それを持参して、不登校生の「通学定期券購入」をお願いに、フリースクールの子ども2人とついに神戸市役所に出向いた。しかし回答は「時代の流れで、いずれ改善されますよ」と他人事のように話すのを、子どもは見逃さなかつた。「そんな態度が不登校生を追い詰めるのが、わからないのですか」と加奈ちゃんが叫んだ。流れをあなたが変えようとはしないのですか。と僕も質問したが、兵庫県は関東とちがつたハードルが高いのですという回答だった。ハードルが高いというのは、いかに子どもに對する人権意識が低いのかということ、自分たちが駄目な教育者ですと言っ



(田辺 克之)